

ビジョン	自分自身でやりたいこと	地域の仲間とやりたいこと	小山市と共創したいこと	他地区と連携してやりたいこと	優先順位
利便性向上による豊かな生活環境 おーバスや AI デマンドバスなど多様な移動手段が普及し、スーパーや医療機関、都市部へのアクセスが向上したことにより、高齢者の社会参加が進み、子育て世帯の送迎負担も軽減されています。また、自然環境と利便性の両立で野鳥観察やイベント来訪者が増加し、移住やリターンも促進されています。	・子供たちに田舎って良いなと思ってもらえる努力も必要。 ・強制はできないが、出ていった子供が寒川に帰ってきてくれるように、親が誘導することも必要ではないか。 ・子どもたちが寒川地区に残りたいと思ってもらえるようなまちづくりができれば良い。	・空き家が目立ってきているので、空き家を活用しつつ、他の地区の人や外国人も受け入れられるような体制を整えることができればよい。 ・空き家が増えているので、空き家を活用して移住者を増やせるような取り組みができれば良い。	・おーバスを中高生の通学に合わせた時間帯に運行して欲しい。 ・家を建てる際に土地柄上、建築許可に時間がかかるので、移住のハードルが高い。 →建築許可の緩和をして欲しい。 ・寒川地区にはバスがなく、免許を返納してしまうと病院や買い物に行けないので、交通の便を整えて欲しい。 ・おーバスを寒川・迫間田まで通して欲しい。 ・おーバスについて、利用者が少ないことを理由にバスの本数を減らさないで欲しい。また、イベントがある時には、バスの本数を増やして欲しい。	・生活範囲を広げるために、栃木市とバスをつなげて欲しい。	
暮らしの安心につながるまちづくり 永野川・巴波川・杣井木川の水の恵みを受けつつ、大規模な調節池や輪中堤の整備と災害予測の精度向上により迅速な避難が可能になり、安心した暮らしにつながっています。また地域の結び付きが強く、災害時の助け合いの風土が醸成されています。防災集団移転者の語り部活動やデジタル資料の活用で、水害経験が継承され、自助意識が向上しています。			・子供たちは、寒川地区の事は好きなようだが、寒川地区はハザードマップが赤いエリアの浸水地区なので、子供が出ていきたいといっても止めることはできない。		
ネイチャーパークと地域交流拠点の整備 防災集団移転跡地は、探鳥やキャンプ、スケートボードを楽しむネイチャーパークとして親しまれ、中心部の交流拠点では多目的スペースや農作物直売所、診療室、無人スーパーが備わり、ネイチャーパークとの相乗効果でにぎわいが生まれています。			・今後土地が空いてしまうので、老人施設や児童施設などをまとめた場所に作って欲しい。 ・交流の場としての役割も兼ねて、寒川で買い物できる施設やカフェを作って欲しい。 ・空き家が多く、子供の通学路にも雑草が飛び出してきているので、空き家を活用して欲しい。		

ビジョン	自分自身でやりたいこと	地域の仲間とやりたいこと	小山市と共創したいこと	他地区と連携してやりたいこと	優先順位
地域のつながりを強めるコミュニティ活動 オンライン会議などデジタル技術の活用で負担が軽減され、コミュニケーションツールもデジタル化されて誰もがコミュニティに参加しやすくなり、気軽に防犯や暮らしの情報を発信し、地域のつながりが強まっています。	・他の地区の人から見ると、寒川地区は人と人とのつながりが素晴らしいと思われる。住民としても、地域のつながりや温かさにいつも感謝している。		・寒川地区の魅力発信に力を入れて欲しい。 ・寒川小学校は人数が少ないため、進学させることに抵抗を持つ親がいる。 →寒川地区の教育環境を整えることで、寒川地区に戻ってくる人も増えるのではないか。		
地域農業と美しい田園環境の保持 なつみずたんぼにより野鳥の生息環境が整い、獣害も抑えられた豊かな田園が広がり、田んぼの学校やビオトープを通じて、子どもたちに自然との触れ合いの機会が提供されています。市民農園は都市部からの訪問者にも人気で、農家との交流や消費者・生産者の結び付きが深まり、新たなビジネス機会も生まれています。	・米産業を生かしたい。 ・寒川地区の売りは農業であるため、少しでも農業に興味のある人たちが農業をできるような環境を整えたい。	・農業体験と宿泊ができる施設を作り、農業に興味を持ってもらえる仕組みを作りたい。	・３０年後も寒川地区の美しい田園環境を残すために、耕作放棄地の対策をして欲しい。 ・他の地区から寒川地区に住んでもらえるように、魅力ある施策を市と協力して進めていけたら良い。 ・寒川地区の若い人たちの３０年後も考えて欲しい。		
地域が誇る歴史や伝統の継承 毘沙門山古墳や鏡神社、観音寺などの歴史ある寺社が地域の文化的支えになっています。花桶かつぎは担ぎ手が減少する中、情報発信で輪が広がり、地区にゆかりのある人々も共に支えています。また、さくらまつりのマルシェでは、子どもたちのおはやしが披露され、どんどん焼きでは田んぼの学校の古代米のワラを活用して五穀豊穡を祈願し、郷土愛が育まれています。	・寒川地区の歴史ある神社、仏閣や伝統行事を継承していきたい。 ・伝統行事を大切に、地域のコミュニティを大切にしていきたい。 ・人口が減っているので、伝統行事を残したくても残せないのではないかという不安がある。	・若い人が減っているので、伝統行事を続けることで、魅力あるまちにしていかなければいけない。			
そのほか	・どうして寒川地区はこのような環境になってしまったのかという反省がある。		・３０年後、小山市は最終的にどうなっていくのか知りたい。 ・嫁いできて驚いたが、寒川地区はスーパーがなく、病院が遠いので車がないと生きていけず、夜が暗い。		